



今日の流れ

- ▶① 架空事例から考える 低学年
- ▶— グループディスカッション

- ▶② 架空事例から考える 中・高学年
- ▶— 反抗期について
- ▶— グループディスカッション

事例から考える

その前に アイスブレーク

- ▶自己紹介
- ▶①〇年〇組 〇〇です。

- ▶②〇〇さんの隣の、△年△組 △△です。

- ▶③〇〇さんの隣の△△さんの隣の、□年□組の□□です。

- ▶④同上

反抗期について考える

・ディスカッションのルール

- ①批評・批判はなし
- ②質より量の意見
- ③「～と、私は思います」
- ④メモはOKですが、個人の情報メモは避けてください。

小学2年生になった娘がいます。幼稚園の頃から「友達に打ち勝ちをもつていいからでも、イヤとはいえるところから大人しい子です。先日、学校から帰ってきて娘から意地悪された」という訴えがありました。話を聞くと「中身」グループだったお友達が他のお友達に「いい話をして、仲間はずれにされた」とやっています。親として、どのように応えればよいか?子供たちのビートルズのお友達とお話しで解決できるようにしてもらいたい。それと同時に、どうして自分をとっても良いのか。また、おどろき性格からか、うつむいてばかりで、見つと自己主張ができるような子になつてもらうにはどのような関わり方をするかといふ点です。

- ・「いじわるされた」との訴えにどのように応えればよいか?
- ・どこまで口をだいたらよいか?
- ・もっと自己主張ができる子になってもらうにはどんな関わり方をすればよいか。

発達に伴う友達グループのあり方

表1 友達グループを構成する人数

年齢	グループ名	0人	2人	3～6人	7人以上	n
2年	男子	13(68.4%)	0(0%)	1(21.1%)	2(10.5%)	19
	女子	10(71.4%)	0(0%)	2(14.3%)	2(14.3%)	14
3年	男子	8(50.0%)	0(0%)	6(37.5%)	1(6.25%)	15
	女子	2(18.7%)	0(0%)	9(75.0%)	0(0%)	11
6年	男子	3(23.1%)	0(0%)	8(61.5%)	1(7.7%)	12
	女子	2(13.3%)	1(6.7%)	9(60.0%)	3(20.0%)	15

事例から考える

小学校5年生の架空事例



小学校5年生の息子がいます。最近、ちょっと態度が反抗的になってしまって、どう対応していいか、分からなくなる時があります。質問をしてもなかなか返事をしないので、少し強い口調で尋ねると、「うるさい」など怒ってしまい、常にイライラしたりしている様子。家では学校から帰ってくると、勉強はそっちのけで携帯ゲームに夢中です。そのためか、テストの成績も下がる一方です。ある日、このままではダメだと思い、かなり抵抗されました。ゲームを取り上げました。

「ふざけるな！」の一言を言い残し、とうとう部屋に閉じこもってしまい、出でなくなっていました。部屋の中では、ドンドンと壁や物にあたっているような音が何度もしています。そして一言「返してくれなかつたら、家出してやるからな！本気だからな」。という声が聞こえてきました

反抗期ってどんな印象がありますか？

「子ども」から「大人」への変わる時期

身体と心の成長による不安定な時期

自分とは何かわからなくなる時期

自立しようとする気持ちと「分離」する不安な時期

**反抗期の研究からー
大学生60人に反抗期を振り返ってもらう**

Table1 反抗期の時期 (N=60)

反抗期の時期	人数(%)
小学校時代	5(8.3%)
小学校から中学校にかけて	2(3.3%)
中学校時代	30(50%)
中学校から高校にかけて	12(20%)
高校時代	7(11.7%)
小学校から高校にかけて	1(1.7%)
小学校から現在にかけて	1(1.7%)
中学校から現在にかけて	1(1.7%)
わからない	1(1.7%)

Table2 反抗の対象 (N=60;複数回答可)

対象	人数(%)
母	46(76.7%)
父	29(48.3%)
先生	11(18.3%)
祖母	2(3.3%)
祖父	1(1.7%)
塾の先生	1(1.7%)
自分	1(1.7%)
雇いの人	1(1.7%)
社会全体	1(1.7%)

ト

江上園子他「第二反抗期に対する認同と自己同一との関連」茨城大学教育学紀要 2013年

**反抗期の研究からー
大学生60人に反抗期を振り返ってもらう**

Table1 反抗期の時期 (N=60)

反抗期の時期	人数(%)
小学校時代	5(8.3%)
小学校から中学校にかけて	2(3.3%)
中学校時代	30(50%)
中学校から高校にかけて	12(20%)
高校時代	7(11.7%)
小学校から高校にかけて	1(1.7%)
小学校から現在にかけて	1(1.7%)
中学校から現在にかけて	1(1.7%)
わからない	1(1.7%)

Table2 反抗の対象 (N=60;複数回答可)

対象	人数(%)
母	46(76.7%)
父	29(48.3%)
先生	11(18.3%)
祖母	2(3.3%)
祖父	1(1.7%)
塾の先生	1(1.7%)
自分	1(1.7%)
雇いの人	1(1.7%)
社会全体	1(1.7%)

ト

江上園子他「第二反抗期に対する認同と自己同一との関連」茨城大学教育学紀要 2013年

最近の研究では・・

「反抗期」というのは、親から見た視点ー

「反抗」ではなく「葛藤」という視点

親子関係のつくりなおし

「世代」の移り変わり

ト



「反抗」ではなく「葛藤」という視点

▶ 「葛藤」とは・・

→ 2つ以上のぶつかる欲求がでてきて、その欲求の強さがほぼ同じ時に、どちらを選ぶべきか決定することが難しく、緊張した状態。



「依存」と「自立」

▶

親子間の葛藤は、思春期、青年期にかぎらず成人を過ぎた以降にも存在し、変化していく可能性がある。

親子関係のつくりなおし

▶ 子どもの視点

→今までの「理想的な」親像が崩れしていく、それでも現実を受け入れていく時期



▶ 親からの視点

→子離れを実感していく時期で、親と子どもが一体的で言うことを聞いてくれていた時期から、子どもが自立的に行動し離れていく寂しさ

自分のサイレ

「世代」の移り変わり

▶ 生涯にわたる親子のいくつかの節目

→子どもを通して自分が「親」を実感するとき



「育てられる」から「育てる」へ

「自分もこういうときがあったんだ」という気持ち

→「私の思い」を私の親もかつてしていたに違いないという気持ち

具体的にどう対応していけばいいの？



具体的にどのように対応をしたらいいの？

小学校5年生の息子がいます。最近、ちょっと態度が反抗的になってきて、どう対応していくか、分からなくなる時があります。質問をしてもなかなか返事をしないので、少し強い口調で尋ねると、「うるさい」など怒ってしまい、常にイライラしたりしている様子。家では学校から帰ってくると、勉強はそっちのけで携帯ゲームに夢中です。そのためか、毎夜逆転して、学校も休みがちに。テストの成績も下がる一方です。ある日、このままではだめだと思い、かなり抵抗されました。ゲームを取り上げました。

「ふざけるな！」の一言を言い残し、とうとう部屋に閉じこもってしまい、出てこなくなりました。部屋の中では、ドンドンと壁や物にあたっているような音が何度もしています。そして一言「返してくれなかったら、もう学校いかないからな！本気だからな」という声が聞こえてきました



小学校5年生の架空事例



小学校5年生の息子がいます。最近、ちょっと態度が反抗的になってきて、どう対応していくか、分からなくなる時があります。質問をしてもなかなか返事をしないので、少し強い口調で尋ねると、「うるさい」など怒ってしまい、常にイライラしたりしている様子。家では学校から帰ってくると、勉強はそっちのけで携帯ゲームに夢中です。そのためか、テストの成績も下がる一方です。ある日、このままではだめだと思い、かなり抵抗されました。ゲームを取り上げました。

「ふざけるな！」の一言を言い残し、とうとう部屋に閉じこもってしまい、出てこなくなりました。部屋の中では、ドンドンと壁や物にあたっているような音が何度もしています。そして一言「返してくれなかったら、家出でやるからな！本気だからな」という声が聞こえてきました



具体的にどう対応したらいいの？

ほめること、叱ることを考える

暴言、暴力、物壊しの対応について考える

ほめること、叱ることを考える

「ほめて育てればよい」のみを考えていること
一できていることを「ほめる」のはもったいないことも
例:「すごいね、お母さんが帰ってくるまでに宿題終わって
いたんだね、偉いね」



「お母さんが帰ってくるまでに宿題が終わっていなければ
ダメな子」という意味が盲点になる。

例えば、約束事をまもったら、ほめる



ほめること、叱ることを考える

子どもを「叱れない」—子どもを叱りすぎると病気になる
—病気になる例を考える

「ある日、トライちゃんを罵り笑ったらハチネと呼ばれた。
自此の後、毎日が1回は罵られたりと怒られたがった。今日
は朝同じかと思ひでぶくべく叱ったつもりなのに「何
やつてやるの!!」と怒られた。お父さんが帰ってきて、いつ
しに近づくとしたら、「うるさい!!」とはねのける。

—いつ怒られるかわからないので、ピクピクしてしまい、家
の中でどうしていればいいのかわからなくなってしまう。

→「叱る」ことの意図が明確になれば、ある意味で子ども納
得できる。



具体的にどのように対応をしたらいいの？

小学校5年生の息子がいます。最近、ちょっと態度が反抗的になってきて、どう対応していいか、分からなくなる時があります。質問をしてもなかなか返事をしないので、少し強い口調で尋ねると、「うるさいなど思ってしまい、常にイライラしたりしている様子。家では学校から帰ってくると、勉強はそっちのけで携帯ゲームに夢中です。そのためか、昼夜逆転して、学校も休みがちに。テストの成績も下がる一方です、ある日、このままではダメだと思い、かなり抵抗されましたが、ゲームを取り上げました。

「ふざけるな！」の一言を言い残し、どうとう部屋に閉じこもってしまい、出でなくなっていました。部屋の中では、ドンドンと壁や物にあたっているような音が何度もしています。そして一言「返してくれなかったら、もう学校行かないからな！本気だからな」という声が聞こえてきました



具体的にどう対応したらいいの？

具体的にどのように対応したらいいの？

日頃からわが家のルールを作つておく

ルールを守つてもらうために

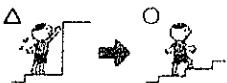


わが家のルールの作り方・守り方のコツ

- ▶ スモールステップから
- ▶ わかりやすく具体的に
- ▶ ルールの存在を確認する
- ▶ 保護者も一緒に「守る」(金太郎飴になる)
- ▶ 「警察」にならない

日頃からわが家のルールを作つておく

□まずは、他愛もないことをルールしてみる
ースモールステップの原理(実際にできることから)



□具体的に伝える
例 きちんと片付ける × → 読んだ本は本棚へ ○



日頃からわが家のルールを作つておく

- ▶ ルールを守らないと損をする経験
- 例:「学校を休んだら、ゲームはやらない」



学校を休んだら「損」をするという経験につながる
→「家」がエンターテイメント化しすぎると、しぶりやすくなる。

保護者も一緒に守る

- ▶ 金太郎あめ作戦(ほめる・しかるポイントを一定にする)



- ▶ 子どもとルールづくりすることは、保護者も一緒に守る



ルールを守ってもらうために

- ▶ ルールを日々伝える

—「時間」と「距離」の関係

「5秒前に約束したこと」—「5日前に約束したこと」
どちらが守りやすいか？

例:「夕飯前に宿題をやる」—やらなかつた
「明日はきちんと宿題をやるのよ・・」→24時間開いてしまう

例えば、「お母さんが2階に行って帰ってくるまえに宿題を
やってみる。3分くらいで帰ってくるからね」

ルールを守ってもらうために

- ▶ わが子は「いつでもルールを守るだろう」と考える事
—ルールを守れない場合もある

▶ 親が警察官のように取り締まる

—「うそ」「言い訳」「他人のせいにする」「失敗を隠す」とい
う行動が増えてしまう可能性

補足**医療現場から**

ゲームやインターネット、携帯との付き合い方

スマホ・携帯のルール作りのポイント

- ▶ スマホやPCが急激に普及し、子どもがスマホやPCを所有したり、操作する場面も増えました。子どもとの連絡手段やもしものときの現在地把握のために親が子どもにスマホを持たせるケース。PCに関しては将来のためにと、進学やお年玉がたまたま時を機に、オーダーメイドのPCを買ってしまうケース。これらがネット依存のきっかけになってしまったケースもあります。スマートフォンは携帯電話の延長ではなく、超小型のインターネットPCを子どもに持たせることと同義です。PCに関してはオーダーしたPCが、ゲームPCと呼ばれるオンラインゲームに最適なマシンであることもあります。現在スマホやPCと子どもの接点をゼロにするのは困難でしょう。ではどのようにこれらと付き合っていけばよいのでしょうか。以下に、いくつかのポイントを挙げました。

- 1. おもちゃがない
スマホやPC、タブレットに関しては子ども専用の端末を用意するのではなく、私が名前で購入したものの一室のルールや操作規則ははっきりと定めておきましょう。タブレットのワイヤレスモードなどはなるべく使わない方が良いです。
- 2. 真うろこに伏せる
ゲームアプリの中には、スマホやPCを使ってから、その面白さや面白さを追求する人は多いです。
- 3. 携帯通話・時間制限を設ける
一人でスマートフォンを使なびく使いないというのが子どもの実態です。しかし、やうした自由なネット環境から、ゲームや動画サイトに長時間没頭してしまうことがあります。スマートフォンはタブレットと、画面での操作は似ていますが、タブレットでは音楽や映像を楽しむことが多く、何か問題に対してどのように反応するかは、タブレットの方が日々経験、経営するまでの段階で学んでしまって、その後のリンクや他の機器で操作となる子どもがつづらと操作を終わらすよう気が付くことがあります。そのためタブレットが登場する場所でタブレットが並んでいます。
- 4. ルールを決める
ゲームは操作ケーブルや電子マネー一式なしに、操作できることは許す子どもも少なくありません。スマホやケータイの場合が特に多いのがこの点が多めです。他の操作料金上乗と並んで、小遣いを出すと手放してしまいます。そのため、タブレットやスマートフォンなどの操作料金を決めて、それ以上は家で楽しむ。タブレットの操作料金は一日3時間、夜中まで、その後タブレットや他の機器で操作となる子どもがつづらと操作を終わらすよう気が付くことがあります。
- 5. 要因に絞る
ゲームは操作ケーブルや電子マネー一式なしに、操作できることは許す子どもも少なくありません。スマホやケータイの場合が特に多いのがこの点が多めです。他の操作料金上乗と並んで、小遣いを出すと手放してしまいます。そのため、タブレットやスマートフォンなどの操作料金を決めて、それ以上は家で楽しむ。タブレットの操作料金は一日3時間、夜中まで、その後タブレットや他の機器で操作となる子どもがつづらと操作を終わらすよう気が付くことがあります。
- 6. 要因に絞る
ゲームは操作ケーブルや電子マネー一式なしに、操作できることは許す子どもも少なくありません。スマホやケータイの場合が特に多いのがこの点が多めです。他の操作料金上乗と並んで、小遣いを出すと手放してしまいます。そのため、タブレットやスマートフォンなどの操作料金を決めて、それ以上は家で楽しむ。タブレットの操作料金は一日3時間、夜中まで、その後タブレットや他の機器で操作となる子どもがつづらと操作を終わらすよう気が付くことがあります。

- ▶ も違反があった時の対応
違反時は復旧可能なペナルティを設けましょう。例えば9時までの使用時間をお守れなかつたら翌日は使用禁止など、一度の違反で全てを取り上げたり、機器を一切使用禁止にするのは現実的ではありません。
- ▶ 7. 犯が根拠となる
根拠を示すルールを作って、我が家中までPCやスマホをいいじっては子どもにルールを守らせない方針とコミュニケーションをとりましょう。そして放課後の時間、外出の時間はスマホやPC、TVを使わず家族とコミュニケーションをとりましょう。
- ▶ 8. 指標できる環境を
日頃から夫婦や子供と一緒にあって、お互いに相談しやすい環境を作りましょう。子供がネット詐欺やネット上のトラブルで困ったとしても、日頃の信頼関係があれば素へも相談しやすくなります。
- ▶ 9. 長期休みに注意
子どもの夏休み・休みなどの長期休暇中はネットやゲームに向かう時間も多くなりやすく休みをきつかにすることなく長時間のバージョンがありません。長期休みの過ごし方や、休み中のルールも長く続けることが求められます。ヤンソン等の休暇充電に参加するのも良いでしょう。
- ▶ 10. 利害当事者、家族全員による
家族の時間の使用禁止は勿論、現実の家族構成（大人と過ごす時間を大切にしました）。キャンプなどの休暇ではネット依存の問題だけではなく、子供に十分とされている休息を見て手を離れて五感を通して現実世界を感じましょう。スキーや乗馬等のスポーツ、釣りなどもオススメです。
- ▶ 11. 良く知ろう
スマホやPCなど次々と新しい機器やシステムが登場し、これらに慣れては現よりも子どもの方がよく知り、おもちゃの代わりに現実世界が子どもの主となってあげるものではなく、どのようなものも、どんな目的で買うちたるその通りに、現実世界に組み込むアクションを知りましょう。
- ▶ (文責:橋本由美 久里浜医療センター)
<http://www.kuribayama-med.jp/parfor/14.html>

なかなか解決ができない問題が生じたら

- ▶ 原因をひとつにしないこと
- ▶ 1人で抱え込まないこと
- ▶ 繰り返しが積み重ねになること
- ▶ ぜひ、スクールカウンセリングを利用ください



ご静聴ありがとうございました。



船橋希望学舎

PTA 希望丘小学校 PTA

～心のびのび 和やかに～

平成29年11月 9日

会長 穴原 京子

家庭教育学級委員会

委員長 黒川 篤子

第2回 家庭教育学級 「こんな時どうする？子どもの悩み相談」のご報告

日頃より家庭教育学級委員会にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

10月20日（金）に開催した第2回家庭教育学級「こんな時どうする？子どもの悩み相談」には53名の方々にご参加いただきました。

本校スクールカウンセラー金田一賢顯先生から貴重なお話をいただき、同年代の子どもを持つお母さん方とのグループディスカッションを通して意見交換を行うことが出来、大変有意義な時間となりました。

★ 子どもが傷ついている場合の親としての対応についてグループで話し合いました。



- ・子どもの気持ちに共感する
- ・時間、日にちを置いて話を聞く
- ・他に目を向けるよう促す
- ・子どもの不満を発散させる

★ 反抗期を迎えた子どもへの対応・心構えについて先生から専門的なお話を伺いました。

- ・子離れを実感する時期。寂しさを感じたら自立のサイン
- ・必ず終わりがありますよ
- ・1人で抱え込みます、スクールカウンセリングを利用してください



【ご参加くださった方々の感想】

- ・同学年のお母さんたちとグループになり色々な意見が聞けて大変参考になりました。
- ・子どもとの関わり方に少し悩み、立ち止まっていたので話が聞けて良かったです。
- ・時間が足りず詳しく聞けない部分があったので、学年を分けて再度機会を作りたいです。
- ・同じ学年でも知らない方が多かったので、顔見知りの方が増えて良かったです。
- ・ルール作りの話は参考になりました。実践していきたいです。

ご参加・ご協力くださったみなさまに、心から感謝申し上げます。